

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 岡山市立藤田中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒 701-0221
岡山県岡山市南区藤田400番地

E-mail : fujitac@city-okayama.ed.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 179名 女子 130名 合計 309名
 児童・生徒の年齢 12歳 ~ 15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

1 藤田中学校のE S Dの特徴

藤田地区は、19世紀末以来児島湖を干拓してできた地域である。将来に展望が持てる藤田地区をつかっていくためには、環境の保全と回復とともに、地域の特色を見直し、地域での世代を超えた交流が必要である。また、地域だけでなく、岡山、日本、世界など広い視野を持った生徒を育成したいと考えている。

(1) 地域に目を向けた生徒の育成のために

①地域の自然・歴史・文化の学習を通して環境や世代間の公平をめぐる問題の背景等を理解する。

②興陽高校の生徒を講師にして草花を育てる「花いっぱい運動」を地域住民と協力して実施する。

③ボランティア活動として地域の祭りの運営に携わり、生徒会活動の一環として藤田公民館主催の「親子ふれあい理科教室」の運営スタッフとして活動する。

(2) 広い視野を持った生徒の育成のために

① 中学1年生が南支援学校と交流を行い、人権教育をすすめる。

② 中学2年生で学ぶ広島平和研修と3年生で学ぶ長崎平和研修を通して、原爆の恐ろしさ、戦争の怖さ、平和の尊さを体感して、世界中の人たちといっしょに活動する。

2 本校E S Dの全体計画

(1) 「職場体験」プロジェクト

つきたい力

・未来像を予測して計画を立てる力
・他者と協力する態度

2年生が3日間少人数グループに分かれて地域の職場に赴き、様々な仕事の体験を積む。

(2) 「花いっぱい運動」プロジェクト

つきたい力

・コミュニケーションを行う力
・他者と協力する態度

授業外の活動として学年を超えて有志による活動を行う。

5月に、藤田公民館の協力を得て、生徒会が主催する「花いっぱい運動」を展開する。

11月には、本校を舞台に3日間にわたって、興陽高校生徒、地域住民といっしょに地域を彩る花を植えたり交流活動をしたりする「花いっぱい運動」に取り組む。

(3) 地域社会や公民館主催の活動への主体的・共同的参画

つきたい力

・コミュニケーションを行う力
・責任を重んじる態度

① 授業外の活動として学年を超えて有志による活動を行う。公民館を会場に、生徒会主催の「親子ふれあい理科教室」を年6回実施し、スタッフの一員として参加する。

② 地域のお祭り（どんぶらこ収穫祭、藤田ふれあい祭りなど）の運営スタッフとして参加する。

③ 文化委員会が地域の小学校を訪問して児童に読み聞かせを行う。

④ 2年生が、出身小学校へ行って、正門に立ち、朝のあいさつ運動に参加する。

(4) 人権教育プロジェクト

つきたい力

・コミュニケーションを行う力
・つながりを尊重する態度

1年の総合的な学習の時間に取り入れる。

1年生12月：南支援学校との交流を行う。

(5) 平和学習プロジェクト

つけたい力

・批判的に思考・判断する力
・つながりを尊重する態度

2年、3年の総合的な学習の時間に取り入れる。

2年生 10月：原爆について学習しオープンスクールで発表する。

2年生 11月：広島を訪れ、原爆の恐ろしさ、戦争の怖さを学ぶ。

3年生 5月：修学旅行で被災地長崎を訪れ、真の平和について考え国際理解を深める。

3年生 9月：文化祭で中学3年間に学んだことを集大成させて世界に訴える。

3 特徴的なESD事例の紹介

「花いっぱい運動」中学生有志が春と秋にそれぞれ地域を彩る花を地域の人とともに植える。

5月 春の花いっぱい運動（公民館で、はるかのひまわりの種を植える）

11月 秋の花いっぱい運動（中学校で、地域を飾るプランターに季節の花を植える）

成果と課題：花を植え、地域を美しい花で飾って豊かな自然に親しむ態度を養うとともに、地域の人や秋に講師として参加してくれる興陽高校の生徒との交流の場となっており、郷土愛を育てるとともに、世代を超えたつながりを実感する場となった。ただ、有志の参加であるので一部の活動にとどまっております。成果をどのように全体に広げていくかが課題である。

4 今年度の成果と課題

① 学校としての成長

活動を通じて地域とのつながりが深まっている。また、教職員にも毎日の教育活動をESDの観点からとらえ直そうとする姿勢がみられるようになった。

② 子どもたちの成長

子どもたちは、地域との交流活動を楽しんでおり、世代間を超えた営みに喜びを見出している。

③ 学校全体として

ESDカレンダーを各教科で検討し、教科を超えて横断的に繋ぐとともにいろいろな場面でESDの考え方を整理しつつある。

1年生での南支援学校との交流学習、2年生での職場体験などに加えて、個人、有志としてもそれぞれがESDの視点を学び生かしていく場面をもっている。ESDの考え方を精神的土台として、学校生活の様々な場面で生かしていくこと到来年度も取り組んでいきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（

）